



『平安のステキな！女性作家たち』
川村裕子／著 岩波書店
紫式部や清少納言など平安時代に活躍した女性作家も、現代の私たちと同じように悩みながら一生懸命生きていた！平安女子のライフヒストリーを知ると、教科書に載っている古典作品をぐっと身近に感じられる。



『モノクロの街の夜明けに』
ルータ・セペティス／作 野沢佳織／訳 岩波書店
独裁政治下のルーマニアで人々の生活は抑圧されていた。諜報員によって厳しく監視され、友人、家族さえも密告者となり得るなか、高校生のクリスティアンが唯一本音を語るのは、狭いクローゼットの中で綴る秘密のノートだった。

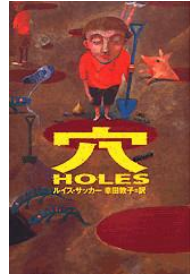


『夜空にひらく』
いとうみく／著 アリス館
暴力事件を起こして試験観察処分となった円人は、補導委託先の煙火店(花火の製造所)で生活することになった。煙火店で働く人々と暮らしながら仕事を覚えていくうちに、円人は徐々に自分の居場所を見つけていく。

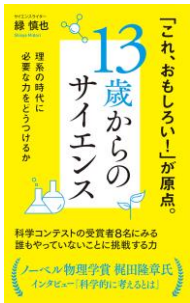


『ルール！』
工藤純子／著 講談社
下校途中にスマホを使っているところを先生に見つかり没収された知里は、校則に従い職員室で見せしめのように反省文を読まされる。それに疑問を抱いた彼女は、理不尽な校則の見直しを求めて、仲間たちと動き出す。

Check it out! ~これもおすすめ~



『穴』
ルイス・サッカー／作 幸田敦子／訳 講談社
ひいひいおじいさんの代から不連続きの家に生まれたスタンリーは、無実の罪で不毛な大地での穴掘り労働をさせられる。けれど不運に耐性のある彼はへこたれない。理不尽な環境からの大逆転は起こり得るのか!?



『13歳からのサイエンス』
緑慎也／著 ポプラ社
「面白そう」から生まれる好奇心の種の見つけ方と育て方。科学コンテストで入賞したことのある中高生 8 名の実験を一通り紹介。君も日常生活で気になったことを、自分で仮説を立てて実験してみたくなっちゃうかも!

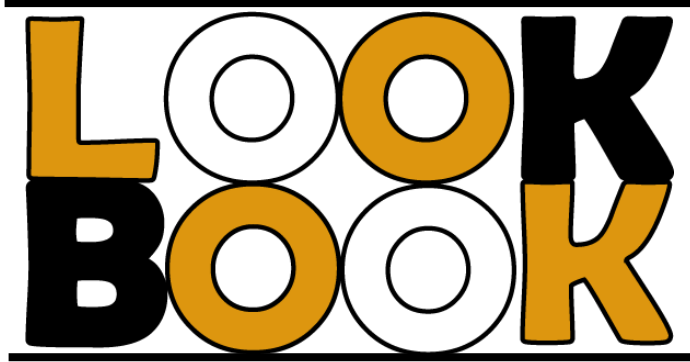


『ネット情報におぼれない学び方』
梅澤貴典／著 岩波書店
ネット情報を使いこなす方法を、著者が大学図書館司書だった頃の経験を基に伝授。確かな情報から自分の世界を広げることが出来る自分の学び、そして誰かのアイデアにも繋がる。学びの楽しさを伝える一冊。

10代のためのブックリスト ルックブック 2024
発行日 令和6年 3月
発行 くにたち中央図書館
国立市富士見台 2-34
042-576-0161

10代のためのブックリスト

ルックブック 2024



くにたち図書館



2023年に刊行された作品を中心に、10代に読んでほしい本を紹介しています。



『あした、弁当を作る。』

ひこ・田中／著 講談社
ある日、龍樹は母の作ってくれた弁当が重たく感じた。嬉しそうに世話を焼いてくる母に違和感を抱くのはなぜだろう？戸惑いながら、龍樹は自分で弁当を作り始める。すると、今まで気付かなかったことが見えてきて…。



『この夏の星を見る』

辻村深月／著 KADOKAWA
コロナ禍で生活が制限された2020年、望遠鏡で星を捕まえるスピードを競う「スターキャッチコンテスト」をオンラインで開催しようと、全国の中高生が立ち上がった。天文活動をきっかけにつながっていく人々の物語。



『シタマチ・レイクサイド・ロード』

濱野京子／作 ポプラ社
自分には才能がないと感じ、物語を書かない文芸部の希和子。執筆活動に情熱的な後輩の入部をきっかけに、創作への自分の本当の想いと向き合うことになる。一筋に打ち込めるものがない主人公の葛藤と恋模様を描いた物語。



『アリとダンテ、宇宙の秘密を発見する』

ベンジャミン・アリーレ・サエンス／著 川副智子／訳 小学館
舞台は1987年メキシコ国境近くのエルパソ。プールで15歳の少年、アリとダンテのふたりは出会った。お互いが特別な存在だと思った少年時代の夏の日々。家族、友情、愛情の中で葛藤する少年の姿を美しく描いた作品。



『最後の語り部』

ドナ・バーバ・ヒグエラ／著 杉田七重／訳 東京創元社
別の惑星に移り住むために永い眠りにしていた人々は、反乱軍の洗脳によって地球の記憶を消されてしまった。一人だけ記憶が残った少女ペトラは、祖母の語ってくれた「お話」を武器に仲間を増やし、生き残るため奮闘する。



『スクランブル交差点』

佐藤まどか／作 小学館
高校生活をまあまあ路線で上手くやり過ごしていた「オレ」。ところがイタリアからやってきた日本大好き留学生のマルコにかきまわされてしまう。異文化、自分の振る舞い、友達関係、進路選択、そして恋愛に悩む青春物語。



『巨大おけを絶やすな!』

竹内早希子／著 岩波書店
一度作れば150年は壊れない日本固有の巨大おけ作り。その存続の危機を知った男たちが立ち上がった。だが、高度な技術を習得するのは一筋縄ではいかず、おけの材料を集めるのも一苦勞で…。職人たちの奇跡の奮闘記!



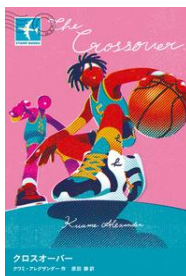
『さみしい夜にはペンを持って』

古賀史健／著 ポプラ社
学校をサボってしまったタコジローは、公園で出会った不思議なヤドカリおじさんに日記を書くよう勧められる。おじさんと対話しながら日記を書くうちに、自分の考えや物事が整理され、悩みが少しずつ解消されていく。



『成瀬は天下を取りに行く』

宮島未奈／著 新潮社
西武大津店の閉店をきっかけに成瀬あかりは動き出した。天才的でマイペースな彼女の行動に周りは影響されずにはいられない! 200歳まで生きる! M-1に出場! 坊主頭で検証! あなたもこの青春群像劇の目撃者になる。



『クロスオーバー』

クワミ・アレグザンダー／作 原田勝／訳 岩波書店
ジョシュはバスケットボールに夢中な中学生。元プロ選手の父のもと、双子のJBとともに練習に励み、試合を勝ち進んでいた。だが、JBに彼女ができ、そして父に異変が…。混乱するジョシュの内面を疾走感のある詩の形式で描く。



『3年間ホケツだった僕がドイツでサッカー指導者になった話』

中野吉之伴／著 理論社
「サッカーがうまくないから、試合に出られなくてもしかたない」と悔しさを滲ませた高校時代。しかし、ドイツのサッカーと出会い、価値観が変わった。好きなものを諦めることなく続けていくヒントを得られる。



『根っからの悪人っているの?』

坂上香／著 創元社
犯罪者を取り巻く環境を想像したことはありますか? ドキュメンタリー映画をもとに被害と加害について考え、著者がファシリテーターとなって10代の若者と元受刑者がそれぞれの経験や感覚を語り合い、思いを巡らせていく。